

## 質 疑 應 答 欄

- 〔問〕 24. 6. 6 法律第 195 号施行 土地改良法  
 // 法律第 196 号 土地改良施行法  
 24. 8. 4 政令第 295 号 土地改良法施行令  
 同法施行規則

以上の法律の解説の本があつたらば お知らせを乞  
 う。(杉並区松庵北町 120 木村方 小林晃三)

- 〔答〕 所 秀雄 }  
 中島豊一 } 共著 土地改良法解説 定價 180 円  
 亀長友義 }  
 齋藤 稔 }  
 発行所 中央区日本橋室町 2 の 8 二光堂 (振  
 替東京 62050)

追て参考として下記のことを併記する。

土地改良法関係法令集(農地局編) } 非賣品  
 土地改良法 (全国耕地協会編) }

(奥田教朝)

- 〔問〕 漸く待望の水理公式集を入手致し、早速通覽し  
 ました所、次の点に疑問が生じたので御教示願  
 います。(准、山下嘉治)

P. 84 及び P. 87 の限界流速の公式

$V_c = \frac{1}{10\epsilon} \sqrt{\frac{al}{A}}$  は呎單位ならば  $V_c = \frac{1}{10.125\epsilon} \sqrt{\frac{al}{A}}$   
 となり

米單位ならば  $V_c = \frac{1}{5.5685\epsilon} \sqrt{\frac{al}{A}}$

となり

学界は米單位を採用している現状に於て

$V_c = \frac{1}{10\epsilon} \sqrt{\frac{al}{A}}$  と近似値を殊更採用された理由如何  
 ですか。

- 〔答〕  $V_c = \frac{1}{10\epsilon} \sqrt{\frac{al}{A}}$  は明瞭にことわつてないが呎單  
 位の近似式ですから本公式集を米單位に統一する上か  
 ら次のように訂正します。

$$V_c = \frac{1}{5.572\epsilon} \sqrt{\frac{al}{A}}$$

$V_c$  は m/sec,  $a$ ,  $A$  は  $m^2$ ,  $l$  は m 單位となりま  
 す。尙解説の最後の行の「幾分小さい」とあるのを  
 「幾分大きい」と訂正します。

又呎單位の場合小数第 3 位までとれば、係数は  $\frac{1}{10.101}$   
 となるが近似式であり、実用上  $\frac{1}{10}$  を採用しても差支  
 えないと認めたのですが上の様に米單位に訂正します  
 からこの問題は解消したものと考えます。(市浦繁)

質疑應答欄について

新しくこの欄ができてから暫く御投稿がありません

でしたが最近御熱心な質疑がふえてきましたので編集  
 部もうれしく思っています。回答はできるだけ早くい  
 たしますから、どんな質問でも どしどし送つて下さ  
 い。

明年度よりの會誌内容

會員諸兄の御意見をもとにして會誌 35 卷 1 号より  
 内容を次の如く致します。投稿規定は別掲の通りです  
 から奮つて御投稿の程を御願ひ致します。(編集部)

報 文 欄: (論説・論文・討議・報告等)

資 料 欄: (抄訳・統計等)

ニユース欄: (國內・海外・人事等)

會員の頁欄: (談話室・隨想・寄書・質疑相談等)

講 座 欄

学 会 欄

投稿についての御注意

愈々 35 卷 1 号より上掲の如く、新しい内容の會誌  
 として新発足致します。今後は毎号の頁数にも計画性  
 を保たせて、確実に予定を組みたいと思ひますので、  
 會員諸兄におかれましても御協力されんことをお願い  
 致します。規定頁数を超過する場合は、原則として編  
 集部に短縮いたしますから 悪しからず 御諒承下さ  
 い。

投稿に際しては下記の点に特に注意願ひます。

1. 登載区分(會誌のどの欄か、論文集か)に御希望  
 があれば付記して下さい。

2. 字数の制限

当分の間邦文に限ります。字数の制限は次の通りで  
 す。

学会誌向

報 文: 4000 字(学会原稿用紙 312 字詰 13 枚)

又は 8000 字( // 26 枚)

資 料: 2000 字( // 6 枚半)

ニユース: 1000 字( // 3 枚半)

會員の頁: 1000 字( // 3 枚半)

論文集向: 12000 字( // 39 枚)

但し、論文集向の場合は會誌に紹介するため、4000  
 字以内の判りやすく親しみやすい内容のものを同時に  
 御投稿下さい。これは審査委員会で審査の結果速かに  
 會誌に御紹介します。尙、前述の 12000 字の制限はや  
 むを得ない場合に限り緩和されますが、この場合、予  
 め編集委員会に御相談下さい。

3. 著者氏名(フリガナ)、職名、勤務先、住所を必  
 ず明記して下さい。

正・准・学の区分もお願いします。

4. 會誌報文及び論文集向原稿には、邦文の要旨(400  
 字程度)並に出来れば英文要旨(400 語程度)を添え  
 て下さい。

5. なるべく平易な文章の口語体を用いて楷書とす  
 ること、振がな、算用数字、当用漢字、新かな遣い、へ  
 ボン式ローマ字及び本会制定の用語を用いて下さい。

6. 図表及び写真は特に明瞭なことを必要とします。  
 図表はトレンシングペーパーの類に墨色で記し、文字濃

字は伸写を考へて 予め 大きめに書き縮写の場合最小 2mm 程度になる様にする。番号及び表題(図-1……表-1)を付記のこと、方眼紙は青罫のものを用い、必要罫線は墨色で記入して置いて下さい。(編集部)

田中豊博士よりの御指示

10月21日の編集委員会に御多中にも拘らず、寸暇をさいて田中博士がお見えになり大いに若がえつたようだと思はれながら種々有益な御話をされました。その中編集部の方にこたえた御注意は論文には必ず英文の表題とアブストラクトをつけるべきこと、及び図表にも英文をつけるべきことを指摘されたことであります。之は上の投稿規定4にも関連することであり、来々からは必ず実行いたしたいと思ひますので、会員諸兄の御協力をお願いいたします。外國の学会との図書交換、知識交流を行い、國際的な舞台への発展を目ざしている本学会としては最低限の準備として以上のことはすでに行つていなければならなかつたことです。紙上をかりて田中博士に厚く御礼申し上げる次第です。

(問) 土木ニュース 36号登載の重機械技術員沼津養成所の所在地をお知らせ願ひます。できれば第4回目の

入所規則を知りたいのです。(准員 須山恒吉外多数)  
(答) 御照介の沼津養成所の件につき建設省土木研究所より御答ををりましたから発表致します。

入所資格 工業を主としたる旧制中等学校卒業生又はこれと同等以上の学力を有するもの。但し目下の各縣建設省関係者で土木部長の推薦を得たもの。

定員 30名

期日 45日間、目下第4回目の受付を行つているが定員を超過の様様、これは11月8日より45日間。第5回目は明年1月より開始の予定である。

費用 食費 7000円(45日間) 教材実費及び重機械運轉特殊免許状受験料等 2500円 合計 9500円。

所在地 静岡縣沼津市上香貫山ヶ下建設省土木研究所技術員養成所

尚お詳細については上記養成所又は文京区駒込上富士前町建設省土木研究所岸田技官迄御問合せ下さい。学会にも規則書見本が備えてあります。(庶務係)

正 誤 表

34 卷 1 号 八戸港沈船防波堤の出來上る迄 (1)

頁 欄 行	誤	正	頁 欄 行	誤	正
6 左 10	計画も原案……	計画を原案	10 左 17	船庫	船底
6 左 19	修築に準例した	修築に準備した	10 左 25	船庫	船底
6 左 23	北防堤	北防波堤	10 右 18	甲板開孔部	甲板開孔部
6 右 21	東西各地域	東洋各地域	34 卷 2 號 河巾拡大部及狭口部の水面形		
8 左 9	構造物との干渉等	構造物との干渉等	頁 欄 行	誤	正
8 左 30	砂がたまつているが	砂がたまつていたが	15 左 17	$\dots + \frac{\alpha' Q^2}{g} h = 0$	$\dots + \frac{\alpha' Q^2}{g} h_0 = 0$
8 右 19	接続点 S	接続点 S	15 右 下から 3	(1) 式	(1)' 式
8 右 35	第一回点線	平面図に点線で	下から 2	$\dots + \frac{\alpha' Q^2}{g h^2 b^3}$	$\dots + \frac{\alpha' Q^2}{g h^2 b^3}$
9 右 13	何年もつかうと	何年もつかうと	16 右 下から 5	$b b_{II}$	$b_i b_{II}$
10 左 12	5	4	17 左 24	であつては $h_0$ は	であつて $h_0$ は

コンクリート標準示方書について

学会では、コンクリート標準示方書を立派なものとするために、コンクリート常置委員会を設け審議を重ねて居ります。今般発行致しました示方書の内容について御意見があればとどし御申し出下さい。審議する際の参考資料としたいと存じます。御意見の提出は3月末日迄にお願いいたします。(コンクリート常置委員会)

# DOBOKU-GAKKAI-SHI

(JOURNAL OF THE JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEER'S)

---

VOL. XXXIV, NO. 5, Oct. 1949

---

## CONTENTS

Papers	Page
National Parks and Construction Works	
<i>By T. Tamura, Dr. Forestry</i> .....	1
Recent Developments in Technics of J. M. R.	
<i>By Ichizo Horikoshi, Dr. Eng. C. E. Member</i> .....	6
Present States of Economical Reconstruction and Photograph-Surveying	
<i>By Michiji Takeda, C. E. Member</i> .....	13
On the Improvements and Constructions of J. N. R. after War	
<i>By Nobutaka Suzuki, Takashi Kasaya, Yukio Tanaka &amp; Hideho Okada C. E. Members</i> ...	18
Guniting in Reparation Work of War-Damaged Elevated Bridge at Osaka Station	
<i>By Yoshihiko Futamatsu C. E. Member &amp; Kiyoshi Goto C. E. Assoc. Member</i> .....	28
<b>Reference Data</b>	
Investigation of Drift Sand by Aerial Photograph .....	39
Population of "Nogyu" after War	
<i>By Samata Sakamoto, C. E. Member</i> .....	40
Construction of "Misono" Bridge, in "Numazu"	
<i>Takashi Sumida, C. E. Assoc. Member</i> .....	42
Stabilizing Work of Railwxy Truck .....	44
Statistical Data (v) .....	45

---

OFFICE

No. 4 OTEMACHI 2-CHOME, CHIYODA-KU, TOKYO, JAPAN.